

ちょっと読んでみませんか(令和二年秋季彼岸)

第55話 『「行雲流水」の生き方』

〔本源寺副住職 本間健司〕

新型コロナウイルス感染予防と、長く続いた猛暑の夏でした。“人類が経験の無い”夏も終わりを迎えました。皆様にとっての今年の夏はいかがでしたか？

富士宮市の公立小中学校では、授業の遅れを取り戻すため、夏休みがわずか9日間(!)しかなく、全国でも最も短い部類に入るということで、すぐそばの白糸小学校には、テレビの取材が来た様でした。

感染対策として、初めてマスクを着けてのお盆棚経を終えると、小学生の息子の夏休みはもう数日しか残っていません。なんとか子供に夏休みの思い出を作ってあげたいと思いつつも、コロナ禍のなか、有名な観光地に出掛けるわけにはいきません。

そこで、県内の方がほとんどニュースで聞き、川に遊びに行くことにしました。とても猛暑の厳しい日でしたが、川辺に着くと猛暑が嘘のように涼しく、ほてった身体が涼風によって冷まされていくのが実感できました。

子供と川遊びを満喫し、ひと休みをしていた時、ふと、子供の頃の夏休みの記憶が甦ってきました。

——それは、近所の友達家族と海水浴に行った時の出来事です。

私は、泳ぎが苦手にもかかわらず、友達の後を追って遠浅の海をかなり沖へと泳ぎ進めてしまっていました。ところが、ふと気づくと潮が満ち初めているではありませんか！泳ぎの得意な友達は、岸へ戻るためほとんど泳ぎ進めていくのですが、私の下手な泳ぎでは、進んだ分だけ波に戻されてしまうような危険な状況だったのです。

そんな間にも潮はさらに満ち続け、ついには私の足が着かない位の深さになってしまっていました。私は、溺れないように必死にもがきますが、徐々に体力が限界に近付き泳げなくなり、大声で「助けてください！」と叫びました。幸運なことに、子供を浮き輪に乗せて泳ぐ男性が近くにいましたので、私もそこに掴まらせてもらって、無事に岸にたどり着くことができました。

後で父親にそのことを話すと、こう教えてくれました。

「あのな。海水っていうのは、力を抜いて静かにしてれば必ず浮くんや。バタバタもがけばもがくほど沈みやすいし疲れるだけなんやで。(※関西弁です)」と。――

そんなことを思い出しながら空を見上げると、真つ青な大空に雲が静かに動き、視線を落とすと、川の水が絶え間なく流れています。

仏教の禅の言葉に、

行雲流水(こううんりゅうすい) という教えがあります。

：「空を行く雲・流れてとどまらない水のように、少しのこだわりも執着もなく、物事に応じて、流れに従って行動すること」

これは、法華経に説かれる

質直意柔軟(しちじきいにゅうなん…素直に柔軟であること) の精神とも

つながる教えと言えるでしょう。

「**頑張る**ことは、**我を張る**こと」という言葉もあるように、普段の生活においても、

自然な流れに従わず、一人勝手に力んで、**頑張**って(我を張って)もがいていては、そのうち疲れ果てて“**溺**れて”しまうのかも知れない…。そんな反省の想いが浮かんできたのです。

そんな状態では、「いつもあなたたちのことを見守っていますよ。導いていますよ。その声に**素直**に耳を傾けてみて下さい。」と説かれるお釈迦様の慈悲の心に気付けるはずな
どありません。

とはいっても、自分のこのころの状態を、自分自身ではなかなか気付けないものです。

なんだか疲れてしまったな…、ストレスが溜まってきたな…、と感じたなら、空を見上げて雄大な雲の動きをゆっくりと眺めてみませんか。身近な川の流れにこのころを任せ
てみませんか。

このころも、雲や水と同じように自然と流れていくのをイメージしながら。

コロナ禍の落ち着かない今こそ、そんな、ゆっくりと自分の素直なこのころを取り戻す
時間が必要だと感じます。

皆様が、素直な心で仏様の大慈悲の心に気付けますよう、一心に祈って参ります。

合掌 南無妙法蓮華経